

## 第4回和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定委員会 議事録

- ・日時 平成17年1月19日（水） 18:30～20:30
- ・場所 市役所14階 大会議室
- ・出席者 足立委員長，射場副委員長，松見副委員長  
委員：本多委員，中埜委員，小原委員，鳥淵委員，前島委員，徳田委員，土橋委員，  
和歌山県企画総務課長，和歌山県商工振興課長，和歌山商工会議所企画調整部長，  
和歌山市中央商店街連合会長，株式会社ぶらくり代表取締役社長，政策審議監，  
企画部長，財政部長，市民部長，福祉保健部長，生活環境部長，産業部長，  
都市計画部長，建設部長，まちづくり推進室長，教育総務部長，教育文化部長  
事務局：13人（協働スタッフを含む。）

（事務局）

ただ今より，第4回和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定委員会を開催いたします。  
委員の皆様には，新しい年を迎え何かとお忙しい中，ご出席いただきましてありがとうございます。  
それでは委員長，議事進行よろしくお願いたします。

（委員長）

それでは進めてまいりたいと思います。  
まず，「素案訂正案」ですが，事務局から説明をお願いします。

（事務局）

それでは，説明いたします。お配りしています資料「素案訂正案」をご覧ください。

これは，第2回策定委員会，第3回策定委員会で委員からいただいた意見による修正や，基本計画区域変更による修正を加えたものと，第3回で委員の皆様にご了承いただいた「事業内容を限定している事業については，事業の要旨を記述し，例示を記載する方法に変更する」という方針で，書き直しが必要であったものを事業全体の中から抜粋したものです。

資料にはページ数が記載されていますが，これは文章等を加えた関係で，皆様がお持ちの素案のページとは違っているところがありますので，ご了承ください。また，修正したページのみを抜粋した関係で，間に白紙のページが入っていることもご了承ください。素案訂正案には○をつけていますが，この○をつけたところが修正を加えたところです。

この訂正案につきましては，後日ご覧いただき，訂正・ご意見等ありましたら，次の第5回委員会までに事務局のほうへFAXかメールでお知らせください。

なお，今回差し替えさせていただくようお願いしておりました「基本計画区域変区によるデータの修正」につきましては，国からの資料等がおくれております関係で，今回はお配りできておりません。

基本計画決定までには，必ず差し替えいたしますので，その点よろしくお願いたします。

では，資料の素案訂正案の60ページとなっているところをお開きください。仮というのが入っていて，『(d)NPO連携による少数派の買い物も出来る店舗の開設事業』としておりますが，これは，前回の

委員会での名称を変更した方がいいのではないかとということで、今回まで継続審議となっていたものです。『NPO 連携による非日常的な買い物出来る店舗の開設事業』という事業名を変更するということで、事務局のほうで仮に「少数派の買い物も出来る」としております。それに伴い、事業内容も「非日常的な買物が」を「少数派の買い物も」と変更しています。

元の内容につきましては、素案の 59 ページをご覧ください。この事業名等につきましては、今回、再度ご検討いただければと思います。

(委員長)

お手元の資料「素案訂正案」の 60 ページの(d)『NPO 連携による少数派の買い物も出来る店舗の開設事業』には、もともと「非日常」という言葉がついていたと思うのですが、その言葉をめぐって問題があるのではないかとということで、事業の名称についていろいろとご検討をいただくということだったと思います。60 ページに『NPO 連携による少数派の買い物も出来る店舗の開設事業』と書いてあるのですが、他に何かいい名称はありませんでしょうか。これは仮の名前を付けているだけですので、他に何かあればと思いますが。

いかがでしょう。前回の議論を振り返って。

(委員)

言い出したので責任を持ってお答えしないといけないのですが、正直、いい案が浮かんでおりません。「間に合う」とか言っていたのですが、この仮のものでも結構かと思えます。ただ、こだわることではないかと思うんですが、「少数派」という言葉も若干気になるなというところです。事務局に考えていただいたのに申し訳ないですけど。今のところ、すぐにこれというものが浮かびません。

(委員長)

そうですね、何かいい案はないでしょうか。

「少数派」というところが表現としていかがなものかというご意見かと思うんですが、この点について皆さんいかがでしょうか。

前は「非日常的」という表現について、いろいろな立場の人がいらっしやる中で、非日常というタイトルをつけることには抵抗があるということでした。

60 ページには『NPO 連携による少数派の買い物も出来る店舗の開設事業』という仮の名前がついています。これは、あくまでもたたき台でして、「少数派の買い物もできる」というのは鑑みまして、表現としてしっかりこないというのもあるかと思えます。事業の名称を検討する会でもありますので、皆さん何かこんなのがいいなというのがありましたら、よろしく願います。

(委員)

私も「少数派」というとマイナーというイメージです。あまり好ましくないかなと思います。少し「～の買い物出来る」ということから枠を広げて考えるというのはどうですか。確固とした回答が出来るといいんですが、それは今出来ないんですけど、例えば「ここだからこそ買える店舗」とかいう形でもう少し範囲を広げて変えるという方向で考えてみてはどうですか。「～の買い物出来る」というのは、すごく限定されてしまっていて、考えるのが少し難しいかもしないと思いました。

(委員長)

はい、例えば広い意味で「ここだからこそ買える」ということですね。このような意見も出ているのですが、皆さんいかがでしょうか。何かいいアイデアはありませんか。確かにもう少し広い意味のものがいいかもしれません。ネーミングに関しては、全国の中心市街地がいろいろな名前をつけています。非常に変わった土地にちなんだ名前とかいくつもあると思うのですが、一風変わったものでもいいと思いますし、また先ほどおっしゃった「ここだからこそ」という表現もおもしろくていいかと思いますが、何かその他ございますでしょうか。

(委員)

例に挙げたアトピーの子ども用の食材販売とか、離乳食メニューのあるレストランとかそういうことではないんですが、今おっしゃられたように広い意味から言うと、例えば「気持ちのいい買い物ができる」とか「居心地のいい買い物ができる」とかではないかと思います。NPO と連携した買い物だけについて言えばちょっと適切ではないかもしれませんが、トータルの条件で広い意味から見ると、そういう言葉でもいいかなと思います。

(委員長)

ありがとうございました。「居心地のいい買い物ができる」、表現としてはすごくすっきりくるかなという気もします。『NPO 連携による居心地のいい買い物も出来る店舗の開設事業』、いかがでしょうか。なかなかパッと思いつくのは難しいですが。

(委員)

「ここだからこそ買える」というのもいいと思いますが、要するによそであまり売っていないということなんです。「よそにない」とかはどうでしょうか。アトピーの子ども用の食材販売は、どこかでやっているとしますし、障害者のための喫茶店もあるとは思いますが、「よそにない」というのを言い切ってしまうのもいいかと思います。

(委員長)

「よそにない買い物ができる」と言うことで、差別化をはかるということで、インパクトの強い名前かなと思います。

今までいくつかのご意見をいただいているわけですが、いかがでしょうか。

(委員)

「よそにない」という意味でいいと思います。

(委員長)

「ここだから」、「居心地のいい」、「よそにない」といろいろな意見をいただいたんですが、他にはないでしょうか。

(委員)

今、少し思ったのは、「個性派の買い物」とかどうかと思うのですが。

(委員長)

「個性派の買い物も出来る店舗」、よそにはないという意味も入っているかと思います。

いくつかの意見が出ているのですが、その他に何かありますでしょうか。もしなければ、一つに決めたいと思います、ただ決め方が難しいですが。今、「よそにない」、「個性派の」、「居心地のいい」などいくつかの意見が出ておりますが、応援の意見でもいいですし、私はこんなのがいいというのがありましたら、ぜひお願いします。

(委員)

和歌山市が PR 出来るという意味で、「和歌山だから」というのはどうでしょうか。

(委員長)

今、ご意見いただいたのは、『NPO 連携による和歌山だから買い物の出来る店舗の開設事業』です。「和歌山だから」という一言を入れることによって差別化、個別化をはかり、また、和歌山というのもアピールするということですが、いかがでしょうか。

いくつかの意見が出ていますが、大きく分けて、特別で、個性的で、ここにしかないというようなニュアンスが伝わる必要かなと思います。どうですか、他になければ、最終的に「和歌山だから」と「個性派の」と「よそにない」の三つの中から選ぼうかという気もしているのですが。

(委員)

この三つの中でですか。

(委員長)

いえ、このようなものがあるなかで、その他にありませんかということです。

(委員)

特にはないです。この意味合いの中で選べばいいと思います。

(委員長)

さて、いくつか出てきている中でどのように決めたらいいのかというのがありますが、基本的には似たような意味で、特別なという意味ですので、最後の「和歌山だから」という一言で、大体個性的であると、このまちのものだからというニュアンスが伝わるかなと私自身は思ったんですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(全委員)

異議なし

(委員長)

では『NPO 連携による和歌山だから買い物の出来る店舗の開設事業』というもので承いただいたものとさせていただきます。ありがとうございました。

では次の議題に移りたいと思います。まず、「和歌山城関連追加事業案」について事務局の方から説明がありますのでお願いします。

(事務局)

それでは、お配りしております資料「和歌山城関連追加事業案」をご覧ください。

基本計画区域の変更により、和歌山城周辺区域に関する事業案が今までの提案の中でまったく出てきていなかったの、和歌山城周辺区域に関する事業案を追加したいということで、今回、事務局からの事業案として提案させていただいております。

これは「城フェスタ開催事業」ということで、この事業は、本市のシンボルである和歌山城を全国的にPRし、観光交流客の誘導を図るために、平成20年の和歌山城再建50周年に向け、市などが実施している既存の祭りやイベントに、さらに、お城を中心とした新たなイベントを組み込んで、「城フェスタ」という名前で開催する事業です。これは実施年度としては、平成17年度からを予定しています。この事業を追加したいと考えています。

(委員長)

ありがとうございました。ただ今の説明についてですが、何かご意見ご質問等ありませんでしょうか。

(委員)

平成20年に和歌山城は再建50周年ですが、和歌山城だけが50周年ではなくて、この年は全国で非常にたくさんのお城で50周年記念があると思うんです。そういうところとの関連性とか、競合性とかを少し考えられたらなと思っております。それで、和歌山城という一つの個性を出そうと思ったら、相当考えなければ他の都市であるお城祭りに負けてしまうんじゃないかなという気が少ししますので申し上げます。

(委員長)

ありがとうございます。日本全国で他のお城が50周年を迎えるということで、なんらかの連携とかを視野に入れて企画立案していく必要があるのではないかとご意見ですが、いかがでしょうか。今のご意見に関連して、もしくはその他何かありませんでしょうか。

(委員)

連携はしていけばいいかなと思っております。和歌山城再建50周年ということで、お城は今、御橋廊下を造っておられるわけですが、内部の整備とかはどういう計画がされているのでしょうか。教えていただきたいのですが。

(委員)

和歌山城の整備ですが、例えば、石垣の補修とか樹木の剪定とかいろいろな形でやっているのですが、

先ほどおっしゃった御橋廊下につきましては、平成 13 年度から御橋廊下の復元工事とあわせまして周辺の整備ということで、13 年度から一応御橋廊下の完成年度が 17 年度、来年の 3 月 31 日で完成するのですが、この期間に全体の事業費約 6 億円を投じまして周辺整備も含めまして整備することになっております。御橋廊下は平成 18 年の 3 月に完成しますので、その完成を記念して一応これから企画立案するのですが、竣工の式典を考えております。

それと同時に、その前に平成 17 年の 10 月くらいに城内の中で和歌山市の著名な方 100 名程度を選定し、パネルで展示いたしまして、和歌山城の PR につなげていきたいという計画もしております。

(委員長)

その他、何かありませんでしょうか。

(委員)

この和歌山城を中心市街地活性化基本計画のエリアの中に組み入れるということは、これまでの議論でいいかと思うのですが、『城フェスタ開催事業』の中で既存イベント、例えば桜まつり、紀州おどり等が大前提となっております。新しいお城の魅力をアピールするということであれば、既存イベントをベースにするというのは果たしていいのかなという気がいたします。まったく新しい発想で、このお城だけが突出するというのがこの委員会の趣旨ではないと思うんです。あくまでも、中心市街地全体の中の一つの要素ではありますが、和歌山城を取り込むような格好で中心市街地全体がという話だと思いません。繰り返しになりますが、既存のイベントというのが少し引っかけます。その辺はどうお考えでしょうか。

(委員長)

ありがとうございます。今の点についてはどうでしょうか。

(委員)

先ほど和歌山城が再建 50 年を迎えるとおっしゃいましたが、これから、城を中心としたイベントというのを詰めていきますので、その他の城とも連携していけたらと思います。その辺は今、模索中です。

それから今、話にでましたお城中心ではなくて中心市街地をという話ですが、実は「まちなか観光」の一環ということでお城をベースに考えていこうというのがあるのですが、今、考えている中で市内のまち歩きのループマップの話が出ていまして、そういう歩くルートを設定しようというものがあります。それは、「まちなか観光」をベースにしておりまして、お城を中心としたフラットな場所を歩く観光ルートというものを意識していますので、これは別にお城の中を限定したものだとは考えていません。中心の中の目玉というか、その一つがお城と考えておりますので、そういう具合にご理解願いたいと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

(委員)

まちなかの中心街のループということで考えていらっしゃるということで、非常にいいかと思います。私が気になるのは、イベントのところですか。例えば去年でいえば、若者の間で「よさこい」が大変盛り上がりました。多分、今年も盛り上がると思います。新しいムーブが起こっている中で、別にこれは決して悪いと言っているわけではないですが、紀州おどりとか既存のものにとられるというのは、私はやはり少し引かかるところがあります。

今おっしゃったようなマップ作りというのは非常に新しい発想だと思うんですが、もっと若者達がお城というものを活用できるような発想や新しいイベントができないかなと思います。

(委員長)

ありがとうございます。いろいろな既存のイベントも踏まえながら、新しく大きな動きを積極的に取り入れていってはどうご意見かと思いますが、それに関連して何かございますでしょうか。

(事務局)

事務局からですが、本日配布しました「和歌山城関連追加事業案」の2行目から3行目にかけてですが、【和歌山城を中心とした新たなイベントなどを加え】となっているところが分かりにくい表現になっていたのかもしれませんが、あくまでここで言うておりますのは、今まであるいろいろなイベントで、市が実施しているものもあれば民間の方が実施されているようなイベントもありまして、もちろん先ほどおっしゃった「よさこい」とかもそうなんですが、そういうのも活かしながら、その形を変えるということではなくてそれらをひっくるめて、新たにお城をテーマとしたイベントを考え出して、イベント一つ一つをバラバラにするということではなくて、まとめて「城フェスタ」という冠をつけて、今まであったイベントとかこれから新しく考え出すイベントを『城フェスタ開催事業』という形でまとめたいということです。ですから、今までのイベントを組み替えるということだけではなくて、新たなイベントを考えての事業ということになっておりますので、もちろん委員がおっしゃったような新しいイベントというものもこの中には入ってくると思いますので、その点ご了承いただけたらと思います。

(委員)

先日、社会教育委員の会を開催しましたときに、和歌山県と和歌山市のいろいろな建物がどのへんにどのように散らばっているかという一覧表をいただきたいという質問を受けました。それを作成させていただきました。そうすると、多くの委員の方が、意外と身近にあるのを知らなかったとおっしゃられたのです。今のお話でお城というものを考えていただいた場合に、例えば、博物館、図書館、あるいはこども科学館、いろいろな関連のものによって、ボストンの例でいえば、ブルーラインとかグリーンラインとかいうものがあります。その色によってお城も一つのコースに入れていただいて、ぜひ博物館に足を運んでいただけるように、より思慮を高めたり深めてもらうために図書館に来てもらえば2階3階にはそういうような関連資料も置いています。そういう注釈を入れながら、全体像を向けられるような、関連の施設を回っていただけるような、いろいろな関連資料をそえていただけたらうまいきそうに思うんです。

(委員長)

ありがとうございました。今のことに関連してでも、その他でも何かあればよろしくお願いします。

お城というのは和歌山の一つの魅力だと思いますが、それは中心市街地の要素の一つです。ですからそういった要素に対して、積極的に基本計画の改訂版の中で位置付けるとともに、やはり全体での視点が必要ですから、全体を見据えながら、また、それぞれの新しいものを見ていくということです。私は大学にいるものですから「よさこい」の人気はすごいです。いろいろ踊って、若い人たちが新しいうねりを和歌山に起こして非常にブームになっています。そういった新しいものを取り入れながら、基本計画の精神の中でやっていければと思いますが、いかがでしょうか。これに関連して、もしくはその他ありませんでしょうか。

それでは、お城に関してはこういった形で新しい空気を入れながら、また、位置付けも全体の中ではっきりさせながら進めていきたいと思えます。では、ただ今の事務局提案の「和歌山城関連追加事業案」については、これでよろしいでしょうか。

(全委員)

異議なし

(委員長)

はい、それではお認めいただいたと思いますので、引き続き素案の内容の検討に入っていきたいと思えます。

前回、基本的にこの策定委員会では、どんなことをするのかということも議論になりました。その中で、案自体はどれもすばらしいので、この会ではどういったものが実行できるのかということを含めて積極的に議論するべきではないかといった意見が委員の皆様から活発に出されました。本来、お手元の素案を検討してその素案がどのような形で進められるのか、また、これは削るべきだとか、選択と集中という考え方の中で議論をしていく予定だったんですが、今回はそれに加えて、前回12月に議論になった「実行」ということを意識しながら会を進めていきたいと思えます。

ただ、その前に素案全部に目を通す必要があると思えます。前回、議論できずに残った素案がいくつかあったと思えますので、そのことについてご議論いただけたらと思えます。前回、議論できずに残った素案の事業は、今回までに見てきておいてもらうということになっていたと思えますので、ご覧になったと思っておりますが、いかがでしょうか。

今回は、71ページの『100円バス券サービス事業』のところからです。ご覧いただいてきたという前提で、この中からみなさんお気づきの点、また、素案の中でここはこうした方がいいよとか、名称も含めて、また内容についても何かご意見ありましたらいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

71ページには【高齢者の中心市街地までのバスアクセスの利便性向上を図る】ということで『100円バス券サービス事業』、次ページから、『和歌山陽だまりのまちづくりーわかやま里花づくり推進事業』として(a)『花の玄関口整備事業』と(b)『「元気の素」循環事業計画策定事業』、そして、『TMO 支援事業』といったものがあります。また、次ページにいくと、その他の高度化事業ということで、『商店街連携システム構築事業』と『中央拠点バス路線整備事業』、そして『市民・学生・行政まちなか連携組織設置事業』、『「まちづくり1,000人会」運営事業』、『中心市街地活性化基本計画進捗管理事業』、最後は『市民参画による協働の企画立案・計画・実施事業』となっているかと思えます。『100円バス券サ



ービス事業』はソフトではありますが、ハード的な面も持っていると思います。そして、『和歌山里花づくり推進事業』というものも打ち出して、中心市街地を花で盛り上げるということも書いてあります。ハード面、そして人づくり面として、特に『市民・学生・行政まちなか連携組織設置事業』、また、『まちづくり 1,000 人会』運営事業』という風に、人との交流の中でまちを活性化させるという事業案がいくつか出ていると思うのですが、いかがでしょうか。これに関連してご意見いただければと思います。

(委員)

素案に挙げられている事業に関しては、特に異存はないのですが、ただ TMO というのが目立ちすぎるんです。つまり、皆様の意見はどうかと思うんですが、全体的に TMO に依存しすぎているような印象になっていないかということです。では他に、というのなかなか難しいので、分からないではないのですが、実際のところはどうかということなんです。特に、もう少し何か具体的なことをやっことするならば、到底これだけの数を TMO だけでやっていくというのは難しいと思うんです。どういう風に取り扱ったらいいかなと思うんですが、まずは委員の方からご意見をいただければと思います。

(委員)

確かに現状の TMO の力では不可能に近いと思いますが、その点につきましては、前前回で実際の実施にあたっては TMO の自主性を尊重していただくという意向が加わったと思いますので、私はそれですべて解決できたと思っております。TMO のことを基本計画へ書いておくことで収まりがいいのであれば、TMO としては何の異存もないということです。結構です。

(委員長)

TMO の役割というのは、まちづくりの中で今後重要かと思われるのですが、確かに素案を見た限りではこれは無理だと私も思います。ただ同時に、今、委員もおっしゃったように、サポート部隊を別途用意するという形の中でやっていくという進み方もあるのです。皆さんご存知のように、TMO というのは民間という組織の位置付けではあるのですが、非常に公的な面を持った組織でもあります。

(委員)

ぶらくりの方へもよく足を運ばせてもらっているのですが、確かに今の段階では委員がおっしゃるとおりだと思います。ただ、役所の方で何か事業を起こしますと、結局最後まで役所の方で面倒を見なければいけないというケースが非常に多くございます。この会が始まってからよく話が出ているようですが、和歌山市も予算的、金銭的には非常に厳しい状態です。その意味では、これから保育所なんかもそうなんですが、公設民営とか、役所がだんだん手を引いていくという風潮になってきています。当然、中心市街地もそういう格好にならざるを得ませんから、私どもも当然お手伝いはするのですが、やはり三セク TMO という、民間的な考えで役所的な裏づけをつけていくというのが一番動きやすいだろうと思います。

実際に、この間からお世話になっている浜通りの歌碑もそうですが、市がかんでいるようなかんでいないようなところなんです。横のトイレもそうです。市で設置していますが、ノウハウなどの中には大学生グループが関与しております。そういう進み方は、これからぜひいるだろうし、そうあるべきだ

ろうと思っています。

(委員長)

ありがとうございます。これからの時代の中で、やはり予算も厳しい中で、行政と民間と、また TMO の関係がさらに密接になってお互いを補完し合うような、またお互いに助け合うような関係になっていくかとは思いますが、先ほど委員が問題提起してくださったように、素案の中で TMO という表記が非常に多くなっているんですが、いろんな形で TMO をサポートしていく、行政、民間が助けていくということで、委員いかがですか。その点については。

(委員)

おっしゃるとおりでして、そうなるこの策定委員会で今は全体に書かれていることの審議をしているわけですが、そのあとに TMO を支える、あるいは TMO とタイアップしてやっていくバックアップ体制なりについて、この策定委員会で最後に具体的に出てくればいいなというところでは、そのバックアップ体制は何かというと、それは委員が一番最初に言われていたミニ TMO というか、名前は何でもいいのですが、素案にたくさん書いてある想定する実施主体が TMO というのを具合的に実際に行動する者はどうかということを策定できればいいなというのはあるわけです。そうすると具体的にはやはり、今までのワーキンググループの方々为代表としていらっしゃるわけですし、その方々のこれならできるという協働体制みたいなものが何かまとまるといいのではないかと思います。そうすれば素案で全体的にある「TMO 等は」という形の中でも、具体性があるかなという裏づけ、裏打ちができるんじゃないかなと思います。

(委員長)

ありがとうございました。実現性に向けて、実際どこが母体になってやっていくか、主体になってやっていくのかという裏づけをこの会でいろいろ検討していけたらというご意見だったと思うのですが、それも踏まえまして、それに関連して、また、その他残りの素案について検討していきたいと思いますので、何かございますでしょうか。

(委員)

素案の 73 ページに(b)『「元気の素」循環事業計画策定事業』というのがあります。文章の内容としては生ゴミを肥料化してということで非常にいいのですが、これを市の方で実行しなさいとなると非常に難しいと思います。その理由として、一つは今でもそうなんですが、ぶらくりの特に商売をされている方々は、ゴミを置くところを自分のところから遠いところにして欲しいということをおっしゃいます。やっぱりにおいがするし、汚いし、イメージが悪いからです。そのときにコンポストの置き場をどうするかということがあります。それと、特にふたを開けたときにコンポストのにおいがものすごくでます。普通は密閉していますのでそんなににおいはしないんですが、ふたを開けたときにものすごいにおいがしてきます。

それから、ぶらくり丁の商店街は生ゴミが少ないんです。プラスチックや紙や包装紙とかが多いわけです。そういう問題点があると思うんです。生ゴミをたい肥にして花を咲かそうということなんです、これはおそらく生ゴミだけでやれば、窒素化材になってしまって、もう一ついいものではないです。だ

ったら試験場で分析してリン酸カリがどのくらい足りないかとかを出して、だから2週間に一回くらい苛性肥料をやらないといけないとか、そんな風にできます。

それからもう一つ、素案に【行政が実施主体となり】と書いていますが、行政が実施主体でもいいのですが、行政が主体になるとなかなか前に進まないです。だから、これは市民が主体になって、行政ができる限りの協力をさせていただくというほうがいいのではないかと思います。決してやるのがいやだということではないですので、そのことをご理解いただけたらと思います。

(委員長)

ありがとうございました。素案73ページの(b)『「元気の素」循環事業計画策定事業』ですが、この点について、今の意見を踏まえて何かありませんか。

これに近い題で、確か富山市が最近やっています。ただ、それが民間主導なのか行政主導なのかは分からないのですが。

(委員)

この事業はDのワーキンググループから出てきました。今、委員長もおっしゃられましたが、他市の例を見ましても、今、話がありましたが、一つの部局でどうこうなるという話ではないと思います。現状がそうだからと言うとこれは多分不可能だと思います。これは、この事業の理念に賛同した地元の、例えばぶらくり丁の商店街でこの事業のようなことがいいのではないかとということから議論が始まりまして、現状はいろいろと問題はあると思いますが、まさに自分のところの店だけが良くなればいいという考えが払拭されてからでないといけない事業です。おっしゃるとおりです。ですから、事業を実現していく過程で、それぞれの地域、商店街が議論を重ねることによって活性化するというものであり、他の大半の事業でもそうだと思います。既存のものにのっかってやろうと思えば、かなり無理があるような事業もたくさんあると思います。そういう意味では、Dグループから出てきましたのは、例えば農林サイドの部と連携する必要もあると思いますし、和歌山市の農地との連携もあるでしょうし、いろんな工夫をこれから考え出さなければ実現できない構図だと思います。

(委員長)

ありがとうございます。それに関連してなにかありましたらお願いします。

まちづくりというのは、現状と出来るかどうか、また、どういったところにまちの理想というか姿を持っていくのかといういくつかの視点があるかとは思いますが、委員がおっしゃったように今は出来なくても、そういった形に向かって進んでいくという議論の土台です。何しろまちづくりというのは、時間がかかると言われると思うのですが、そういったご意見だと思います。

それに関連してでも、その他でも構いませんので、残りの素案について議論をまとめたいと思います。

(委員)

素案の76ページ、77ページに『中心市街地活性化基本計画進捗管理事業』と『市民参画による協働の企画立案・計画・実施事業』という二つの事業があります。『中心市街地活性化基本計画進捗管理事業』は、これからの基本計画をどうやって実施していくかということを経営していく事業ですが、その実施主体が行政になっていて、『市民参画による協働の企画立案・計画・実施事業』は、【事業により実

施主体は異なると予想される】と書いてあるのですが、これは少し問題だと思います。

中心市街地の活性化基本計画の進捗状況を作り出すのが、行政が主体というのは実際難しいと思うんです。現実には、素案の後ろの方に載っているワークショップのグループの中で、実際にやろうとしているグループがあるわけですから、そういう人たちがやることをまずは前提において、それをできるかどうかを行政がサイドからみるということです。つまり、行政側から言えば、ワークショップで言っていることは現実的にはできないことが多いと思うんです。だけど、それを実現するためにはどうするか、何を変えないといけないかということを議論する基本的にはオンブズマンみたいな会にしないとイケないと思います。これはすぐ出来ます。

さっきのゴミの問題もそうですが、ゴミの問題は今の状況では伝統的に行政は出来ないです。ところが今問題なのは、我々は伝統を守っているだけではまちを活性化できない状況に陥っているわけです。つまり、行政の縦割り行政はいろいろと問題が指摘されていますが、問題が先に行っちゃってるわけなんです。福祉とか、生活環境とか、商業とか全事業をつながないと問題解決が出来ない状況にまちは陥っているわけなんです。行政が手を横に結ぶために工夫するのを助けることにより、ワークショップで出た結果を進捗させる管理をしなかったら、悲哀なんです。そのときに今までの前提条件を覆すためには、まずは実現するというを前提条件にして、つまり、ワークショップの4グループから出てきたものを実現するというを前提にして、行政が関与できないかということ和管理する委員会にするべきだと思います、『中心市街地活性化基本計画進捗管理事業』は。そうしないと、今までの常識では絶対に無理です。例えば、道路に屋台を一個出すとかでも、今の状況では道路を占拠したり管理することは出来ないのですから。道路を占拠することをクリアしようと思ったら、行政の道路管理課の方、それから公安の方、いろんな方と連携をとってこれは例外事項だと言って、大きな権力を持っている人に例外事項として認めてもらう。そういった形でもし例外事項として市長が認めてくれるなら私はそれで構わないと思う。そういった上からの力で。ただ一番大事なことは、ワークショップで出てきた結果を前提として、出来ると仮定して行うためにはどうすればいいかということを考える管理委員会を作って欲しいんです、『中心市街地活性化基本計画進捗管理事業』では。

(委員長)

そうすると、想定する実施主体というのはむしろ市民の方であって、行政はサポート的な位置づけなんでしょうか。

(委員)

そうですね。

例えば、大規模な空き店舗を開店したいときに、大規模な空き店舗の地権者は非常に大きな負債を抱えているわけなんです。だから勝手に、簡単に貸せないわけなんです。ところが市民の側は、そういう大規模な空き店舗はすぐにも使いたいわけなんです。だから、例えば1階2階は生鮮食品の店にして、赤字を黒字にしていくという風に少しでもビジネスとして成り立たせて、事業として成り立たせることは出来るんです、1階2階を開けると。ところが、地権者には固定資産税を払うだけのお金にならないということがあるので、市長がその固定資産税を一定期間取るのをやめて、その分のお金は市には入らないけれど、その代わりに市民たちが使うんだというふうに諦めてもらう。それは議会で決定してもらわないといけないです。つまり、固定資産税を取らない。取らない分の固定資産税を市民に与えたとい

う格好にして、大規模店舗をオープンするとか、それくらいの勇気が必要なんです。そうすれば、お金は全然儲からなくても市民の動きは出来るわけですから。そこまで考えるためには地権者を説得しないといけない。それから、市長も決定しないといけない。議会も決定しないといけない。いろいろなやらなくてはならない手続きがいっぱいあると思います。ただ、そこは私はまったく行政におんぶにだっこしたいわけなんです。行政は苦しいことだけど、これは決意してもらいたいです。

住民たちはさっぱりわからないわけなんです。何であの店舗が開けられないのだろう、地権者が反対するのだろう。それは当たり前です、地権者は今までに損をしてきているわけですから。そこで私たち第三者の立場の強みとしては、そうではないんだと、和歌山をよくしないといけないんだと、和歌山市を助けないといけないんだと、和歌山市にとってこの大規模店舗を空けておいてはいけないんだと、印象が悪いんだと、そういう市民の意識を高める会を持たないとこれは解決がつかないと思う。このままでは、和歌山市はどんどん落ち込んでいくと思う。

(委員長)

ありがとうございます。非常に現場に立ったご意見だと思います。和歌山市では特区という形で大規模小売店舗に関しては対応したかなと思うのですが、おそらく委員がおっしゃったようなやりの方が、市民の意識とかも高まると思います。

今のご意見を踏まえてでも、その他のご意見でも構いませんが、例えば今、中心市街地の活性化基本計画の進捗状況を管理する事業について議論していますが、この事業の在り方はこれでいいのか、事業の実施主体は素案に書いてあるようなものでいいのか、また、市民が中心になって別途、会を立ち上げる、それを行政もサポートするという事は考えられないのか。そういう制度はイギリスでは出来上がっているのですが、そういったタイプにしていくのかというご提案だったかと思います。いかがですか。

(事務局)

事務局からですが、『中心市街地活性化基本計画進捗管理事業』ということで素案にかいておりますのは、事務局側からの提案ということになっておりますが、私どもまちおこし推進課が、この基本計画の所管になっております。その上で、この基本計画がどれくらい進捗するのかということを見ていく必要があるだろうということで、実施主体が行政という表現になっておりますが、個々の事業はそれぞれの実施主体の方がやられるのがどういう具合になっているのか、あるいは、やるにあたってもう少し行政の方で条件を整えれば出来ることとかいろいろな検討も必要になるかと思っておりますので、そういったことを私どもの方でやっていこうということと、それと、基本計画の中で行政の役割を果たしていくためには、たくさんの課がありますので、その調整を取っていく必要があるかと思っております。調整作業というのも各課にまたがる話ですので、窓口としては私どものまちおこし推進課が行政の窓口になっていこうというようなことで書かせていただいております。

それと、【中心市街地活性化推進協議会を開催し】と素案に書いてあるのですが、これが要するに行政側の合意形成をしていく組織と捉えておまして、これを年何回か開きながら、中心市街地の状況を報告しつつ、また新年度の事業に向けて行政でしなければいけないことなどを話し合ったりするという位置づけで素案に書かせていただいております。前から出ているミニTMOの話とも関連してくるかとは思いますが、民間の方との調整であるとか、また別の組織で進捗管理をするとか、仮に民間でそういう組織が立ち上がった場合そういったところとの連携であるとか、あるいはTMOとの連携であると

か、そういったことを一切まちおこし推進課の方で受け持っていこうということで書かせてもらった事業ですので、そういうご理解を願えたらと思います。

それともう一つ、次の『市民参画による協働の企画立案・計画・実施事業』ですが、これは実際に基本計画に盛り込んだ事業以外にも緊急に市民の方が何かをやる必要があるとか、おそらく5年以内に素案に書かれていない事業が出てくるだろうということを予測しておりまして、そういう事業がこの素案の記述の仕方でおそらく受けられることが出来るのではないかとということで、一つ事業を足したわけでございます。ですから、この事業に関しては実際どういう事業がおこるかは、まだ想定しておりませんが、何らかの形で企画立案をし、計画をし実行していくという市民主体の事業であれば、基本計画ベースでの位置づけができるようにと書かせていただいた事業なので、実施主体が事業により異なるということになっております。

(委員)

これは、まちおこし推進課が窓口になるということを明文化してはまずいのですか。

(委員長)

『中心市街地活性化基本計画進捗管理事業』についてですか。これは多分、窓口になるのは可能ではないかと思うのですが、その辺はいかがですか。

(委員)

まちおこし推進課の力を強めてあげた方がいいと思うんです。

(委員長)

これは、おそらく中心市街地活性化法の中で、進捗状況のチェックみたいなものがある中での行政提案ではないのですか。

(事務局)

進捗状況のチェックというのは、中心市街地活性化法の中では規定されておらないのですが、平成11年3月に、前回の基本計画を作りまして、その中でなかなか事業が進んでいかなかったという私どもの反省の中で、今回はきちっと進捗管理をやって、事前にアプローチを出来るものはしようということでこういう事業を作りました。

それと、中心市街地の活性化に関することという形で、まちおこし推進課の事務分掌に載っておりますので、そういう意味ではオーソライズされております。

(委員長)

よろしいでしょうか。その他、今の部分に関連してでも、その他素案についてとりあえずこれはどうかというご意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

素案の最後の事業は、未来に新しく発生するようなニーズにあった企画を推進、支援していくということで設けているかと思うのですが、今後、市民が何かをやる必要があるときに、この部分で対応していくという形になっていると思います。

素案については、素案に載っているような形で行くということによろしいでしょうか。

(全委員)

異議なし

(委員長)

それでは、市民提案であがったすべての素案については、基本的にお認めいただいたと思います。

ところで前回、お話で出てきた中に、「実行」の話がありました。実現の話として、実際に出来るのか出来ないのかというところで、委員のほとんどの方がおっしゃっていましたが、この会の中で実現について議論していったらというご意見をいただきました。12月以降いろいろと考えさせていただきまして、やはりその意見は組み入れてやっていきたいと思っております。ただしその前に、前回、中心市街地としてある程度の一つのアイデアというか考え方、フィロソフィーといいますか、こういったまちにしていくなんだという視点がまちには必要ではないかというご提案をしていただいたと思います。

私もいろいろな都市を研究していますが、非常に伸びていくまちというのは、特色を持って発展しているまちが多いかと思えます。例えば、大雑把に分けて、観光というものに特化して中心市街地を盛り上げていくとか、または特産物、地元での地産地消とかいった視点で、地元のものを中心市街地でお土産にしたり、また文化とかそういったものに焦点を当てて、まちの活性化をはかっていく。いわゆる、バラバラにやるのではなくて、ある程度焦点を絞った上でまちを活性化させていくというのは、ご提案のように確かに必要な視点かと思えます。

委員、前回のときにおっしゃったのは、まちの魅力はいろいろとあると。ぶらくり丁に関連したお城の魅力ですとか、城下町の魅力ですとか、例えばまちの角になにかがあるような情緒とか、そういったものを一つの軸にしておいて、そういった視点からこのまちの素案について網掛けをして見ていくということでしたかね。

(委員)

そうですね。和歌山のまちの中に、隠された構造が存在すると私は感じます。それは何かは分かりませんが、城下町に関連しているのは間違いなくて、それとあとは城下町に関連した外堀とか内堀とかの関係や川とか水辺とかが全部連携しあって一つの構造を作っていると思うんです。別の分野の人と話をしていると思ったんですが、それが和歌山市のサブカルチャーというか、和歌山市のいろいろな文化がバラバラな具合の共存関係を作っている原因ではなかろうかと少し思っているわけなんです。そういう風に見たときに、初めて例えば先ほど私がお話したように、中心市街地に大規模店舗が二つも空いているというのは、無法な不法な状態だと思うんです。それを私たちがどうやっていくのかというときに、和歌山市は城下町としての文化を競ってきたまちなんだと、そういうまちで仕事している人にとっては水が非常に大事なんだと考えると、水辺と連携して大規模店舗を含めていろいろと変えていくとか一つのプログラムが出来ると思うんです。

この基本計画というのは、基本的にはテーマに沿って、それに対する事業施策をメニューしたわけです。メニューの次に必要なのは、これをどういう順序で実現するかというプログラムが必要だと思うんです。日本の都市計画そのものがプログラムの要素が弱いので、この素案もそういうところが少しあると思うのですが、私たちはフィロソフィーというか、和歌山の城下町のまちのいいところは何か、和

歌山の城下町に求めなければならないものは何かということをも明快にすることで、初めてプログラムが出来て、ではお城のここはどう扱うか、大規模店舗はどう扱うか、水辺はどう扱うかということが明確になるということを申し上げたんです。ただ抽象的です。

(委員長)

抽象的というか、非常に必要な点かと思うのですが、ただその場合、例えばキャッチフレーズみたいなものを中心市街地活性化基本計画について作るというようなことでしょうか。すでに、「住遊融合・新しい都市核」とか、基本テーマとかサブテーマはいろいろ用意されております。ワークショップではそのサブテーマに沿っていろいろ議論を積み重ねたと思います。サブテーマとして、「個店の魅力で人を惹きつけるまち」、「お気に入りの風景やスポットのあるまち」、「長い時間ゆっくりと過ごせるまち」、「高齢になっても生き生きと暮らせるまち」というように視点がいくつかある中で、さらに全体を統括するテーマとしては「住遊融合・新しい都市核」というような言葉があるかとは思いますが、個人的な考え方として発言させていただきますと、キャッチフレーズというか、もう少しぐっとくるようなものがないのではないかと思います。この場は画期的な会でありまして、つまり、住民参加であがってきた意見をこの会で最終的にいろいろまとめて、キャッチフレーズといったものに反映しながらやるというのは、おそらく初めてに近い会議です。だからそういった点では、おもしろく、ぐっと印象に残るようなキャッチフレーズを作り上げるという議論がもう一度必要かなと思います。

(委員)

私は前回も申し上げたんですが、今、委員長あるいは委員がおっしゃられたことについて、全面的に賛成いたします。私のグループはAグループですから、「個店の魅力で人を惹きつける」となっているのですが、皆が一致して賛成したことは素案の52ページに書かれています「商業テーマの設定」です。商業といいましても、皆が思っていたことの中核は、和歌山をどういったテーマのまちにしていくんだ、どういう括りで和歌山というものの独自性を出すんだということにして、他の都市と比べて突出しないと活性化しないわけです。他の場所と違わないと活性化できないと思うんです。

和歌山らしさといっても、Aグループで考えていたのですが、もちろんそれは様々ではあるんです。もちろん城下町を活かしたまちという意見もでしたし、川を大切にしたり、Aグループのテーマとは少し違うんですがそぞろ歩きが出来たりという、そういうことが個店の魅力につながるわけですし、もちろん商業者の皆さんは一生懸命お商売をされていてそれをどうこういうというのは難しいことではあるのですが。だから、テーマというこれこそこういう皆さんが集まられている場の中で、ご議論いただいても決められたらと思います。

私も5年前の計画を見せていただいて、これがどれだけ実行されたかと協働スタッフの方にお聞きしたわけです。そうすると何件かは実行されているとは思いますが、実態はその方がおっしゃるにはほとんど実行されなかったということです。それは残念だったんですが、今回はもちろんそういうことのないような素案、計画になって欲しいというのが私の願いでして、だからこそ想定する実施主体というのをいろいろと書いているのですが、ただTMOに押し付けているとか、なかなか限界とか矛盾点はあるわけです。だから、これで素案が一応了解いただけただけというわけで、次にテーマというか、今、委員がおっしゃられたようなことをぜひ決めていただけたらいいなとも思いますし、Aグループの皆もそう思っていると思います。



(委員長)

ありがとうございます。今おっしゃったように、まちというものを一つのテーマ、もしくは一つのテーマでなくてもいいかと思うのですが、ある程度の方向性を、あくまでもまち全体ではなくて中心市街地についてですが、この会の中である程度の方向性などを考えて決めて、ここにあげられているそれぞれの素案についてはすでにご了承いただいているので、次はそのテーマにしたがってのアレンジです。

そして、おそらく重要なのは実行性だと思います。この会も時間の制約上、今回と次回しかないのですが、その中で進め方についてはいろいろと案があるのですが、とりあえずこの場では、委員さん方からもいただいたように、ある程度の方向性というかテーマというものを出しあって再度確認して、その中で中心市街地は数年間はこういう形でいくんだということを決められたら、この会としての一つの大きな意味にもなるでしょうし、素案については大体見てきてこんな感じでいこうということは決まっているのですが、それを校正しなおして議論していくのも可能かと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員)

イメージというかサブテーマのことで、Dグループは「高齢になっても生き生きと暮らせるまち」ということだったんですが、そういう意味では今思うと抜けていた視点があったかと思います。それは何かというとスマトラ沖の地震、津波です。12月の委員会の後に起こりましたよね。また、ちょうど神戸では国際会議をやっております。まったく高齢者が安心して暮らせるまちというのは、安全、安心であるまち、堅牢なまちです。私たちも今、子どもたちと議論しながら、何か地震や津波があったときにまずどこに逃げるかという、和歌山市で一番堅牢な土地は和歌山城だろうという話をしております。歴史的にみて、一番堅牢なところに作ったはずですから間違いのない場所なんです。ここに逃げろという話が出る前に、今、自分たちが安全で安心して暮らせるまち、そういうセキュリティのあるまちというのがこのごろ皆、関心が高いと思うんです。残念ながらワーキンググループの中では、そこまでつこんだ議論ができなかったんです。確かに魅力ある風景というのは大事なのですが、川の話なんかでも、和歌山大空襲のときに内堀に避難したとかそういう歴史的なことも和歌山市にはたくさんあるわけです。そういう見方をすると、安心、安全、堅牢なまちづくりという視点が、どこかに欲しいかなと思うわけなんです。何かサブテーマのところで付け加えられるところがあればと思っております。

(委員長)

ありがとうございます。サブテーマのほうですね、安心、安全というのは。全体のテーマとしても重要かと思います。

確かに安全管理というのは、地震だけでなく津波、その他日本は災害大国ですから、それに対して備えたまちというのは非常に魅力的だと思いますし、特に高齢者の方の安全性を考えたときに非常に必要な視点かと思います。

その点につきましても、もしくはそれ以外の点につきましても、ぜひ全体に網をかけるテーマをいただきたいです。今、地震、安全というテーマを一ついただいたわけですが、その他にも何か、もしくは今に関連してでも構いませんので何かございませんでしょうか。

(委員)

こういう会議とかワークショップには初めて参加しまして、いろいろと聞いていたのですが、素案の一つ一つをやっていくのに、やはり市民がこの事業もこの事業も和歌山市の活性化のためにやっているんだということが一目で分かるものであってほしいと思います。名称でもいいですし、色でもいいですし、マークでもいいです。それで今ずっと素案を見ていたら、市民がボランティアをして、市民がお金を使って、まちが潤いますと。そのためのアイデアは私たちが出しますという会議を今やっていると思うのですが、市民側から言わせてもらいますと、こういうことをやってまちが活性化して、潤ってまた私たちに帰ってくるんだなということを、もう少しはっきりとまちが活性化することによって市民が住みやすくなるために協力してもらいたいと言ったほうがいいと思います。こういうことをすると潤って、潤った後にはこういうことができますと。そうしたら、和歌山で買い物をしようかなという意識が芽生えたりするかもしれません。よく田舎へ行くとタバコは地元で買おうという看板がありますが、それは何かといったら財源のためです。普通、タバコはどこで買ってもいいものですから。

市民に今はこういうことをやっていて、活性化するとこういうことになりますと。そのために今は辛抱してくださいと、協力してくださいと、そういう何か案を打ち出してもいいのではないかと思います。一つ一つの事業がつながっているんだという、一目見てこれは和歌山市の活性化のためにやっているんだということが分かる方がいいような気がします。イベントもできますけど、このイベントはこういう意味で和歌山市の活性化のためにやっていると。事業を一つ一つやられると、僕は百貨店の女性の下着売り場にいるような感覚になって、これは関係ないなと通り過ぎることもあるので、これはまちづくりのためにやっているんだと、市民が今やっていること、5年後にはこうなっているということが分かるような感覚も欲しいです。これは、お互い協力してくださいと、では協力しようかということ。人間ですから気持ちが働きますから、個人的なレベルでいうと友達が店をオープンしたら、食べに行こうとか、ガソリンをいれに行こうかとなりますが、他人事のような感覚をもってしまうと、別にいいのではないかとなります。これが人のような気がしています。

だから、ある一つのことをすることでこうなり、次はこういうことがありますということや和歌山市が言えば、言うだけならば、逆に照れながらも参加しやすいとか、日常のレベルで言えば、あいつが言っているなら仕方ないなという気持ちになれば、ボランティアもしやすくなるし、一つ一つ上から立派なことを言われると結構ひるむんです、一般の人は。私はとんでもないですと。

何かそういう芽生えるスローガンがあれば、いいと思います。

(委員長)

ありがとうございます。委員の話をつきながら、何かいいキャッチフレーズはないかと考えていたのですが、そんなような言葉が入るといいと思いますし、まさに大切な視点だと思います。この会はまちづくりの出発点として、自分たち、もしくは息子や孫の時代のためになるように今やっているということです。

何かそういうキャッチフレーズが一言あると、全体の視点から素案を見ることができるかだと思います。この中心市街地活性化基本計画のいろんな案は、中心市街地を楽しくする、盛り上げる一つの束だと思います。その束をこういう方向でぐっと括るというようなところがもしあったら、それはおもしろいなと思います。ぜひ、何か出していただけたらと思うのですが、それに関してありませんでしょうか。

(委員)

Dグループで話し合いをしているときに、キャッチフレーズが出たのでそれがないかと素案の後ろのほうを探していたのですが、ここには乗っていないようです。Dグループはキャッチフレーズを考える時間をとったんです。皆さんからのキャッチフレーズというのを募って、それをたたいたんですが、ちょっと思い出せません。

先ほど委員がおっしゃったように、コメントか何かスローガンのようなものがあればと思いながら、ただ今、頭を働かせております。

(委員長)

分かりました。皆さん、いかがでしょうか。

ぜひ、こんなキャッチフレーズはというのをざっくばらんにお話しするというのが、本当の住民参加の会議だと思いますので、行政の方も何かありましたらお願いします。

(委員)

和歌山弁に「つれもていこら」という方言があります。それは他府県ではあまり理解されないですが、そういうことから、「つれもてやろら」とか、そういう少しおもしろい言葉は一つどうかと思います。

(委員長)

ありがとうございます。「つれもてやろら」、「つれもていこら」、そういう表現の中にこれがうちのまちの一つの魅力なんだというのが加わればと思います。例えば「つれもてすもら」とか。何かございませんでしょうか。

今、議論いただいているキャッチフレーズというか方向性というのは、すでに素案にはある程度テーマやサブテーマはあるのですが、その中で市民参加の策定委員会で出てきたキャッチフレーズがあれば、それで全体を見渡して、こんな方向でこのまちの中心市街地はやっていくということを決めて、そういうことが一つあれば、先ほど委員もおっしゃっていましたが皆が参加する理由付けになるというか、そういうことならそれにそってやろうかということになっていくと思います。ですから、何らかのキャッチフレーズの中で、すでにすばらしい素案が出されていますのでそれを見ていって、次に、実現についてということになるかと思います。いかがでしょうか、「つれもて」に関連してでもそれ以外でも何かいいテーマはないでしょうか。

ちなみに他府県では、いろんなテーマにしたがって、うちのまちはこんなまちですというのがあつてあります。例えば、徳島県の脇町というところは「うだつのまち」というテーマを挙げて、うちのまちはこういうテーマでやっていますと言っています。あと、キャッチフレーズで言えば、埼玉県が「彩の国」というテーマを挙げています。いろいろと書くのですが、いろいろな人の意見を集約しながらまちとしての魅力を高めていく「彩の国」というテーマでやっていたと思います。

中心市街地について、特に一部の地域について、そういったネーミングというのは確かに少ないと思うのですが、ぜひここは一つ攻めに出るという意味でおもしろいテーマで、かつ、和歌山弁が入ったものがあればと思います。全体を統括するようなものです。いかがでしょうか。

やはり、「住遊融合」という言葉も必要なんですけど、少し硬いというか、皆でまちを考えたときにもう少しやわらかい、くだけた表現でまずテーマを設定して、そこに今まで議論してきた素案についての

ことを加えていけばと思うのですが、何かないでしょうか。

委員が前回 12 月の会でおっしゃってくれた視点というのが、私は和歌山の人間ではなく外から来た人間なので、とても魅力的なんです。このまちに来てみて、ぶらくり丁というのを見てみたときに、ちょっとごちゃごちゃした雰囲気があったりとか、城下町としての味わいがあったりとか、例えば何かあるか分からないお店があったりとかするんです。去年の 10 月に和歌山で建築士の全国大会があったときに、建築士の皆さんもおっしゃってくれました。全国から建築士の皆さんがぶらくり丁を訪れているコメントをくださったんです。その中で、すごく印象に残っているのが、ふたを開けてみるといろいろおもしろい店はたくさんあるということです。特に、例として一つあげてくれたのは、金物屋さんです。こんな金物屋さんがあるんだと、こんな金物さんは全国にはなかなかないと、その方は九州から来られたんですが少なくとも自分のところにはこんなのはなくて珍しいし、意外性のあるまちだとおっしゃっていたと思います。また、そんな中で城下町というのがあるって、いろんな文化があるって、ぶらくり丁という 170 年以上の歴史を誇るまちがあったりとか歴史もあります。それを一括りというのはなかなか難しいのですが、何かテーマを設定してその視点の中でやるというと、市民サイドとしてはすごく分かりやすいものが出来るんです。いかがでしょうか、そういった視点からでも構いませんし、また、皆さんのご意見がありましたらいただきたいです。

(委員)

印象としては、和歌山市というまちは和歌山を何か背負っている、守っているという、背中に聖地とか全部持っていて背負っているような感じがします。このまちが玄関になって、全部の風を受けて後ろを守っている感じがするんです。このまちはそういう印象が強いです。そういうようないい言葉はないですかね、分かりますか。

(委員長)

分かります。キャッチフレーズとしてですね。

(委員)

和歌山市の中心市街地は、和歌山県の全体を背負っているような感じがするんです。

(委員長)

それは歴史とかですか。

(委員)

歴史もあります。聖地が後ろにあるということもあると思います。だって昔の天皇の行幸先でしょう。明らかにここには表玄関としての何かがあるんです。

(委員長)

「歴史にたたずむ背負いのまち」ではないですが、ちょっといい案が浮かばないです。

(委員)

皆さんの方がよくご存知だと思いますが、対外的、全国的には、和歌山を知ってもらう手立ては紀州五十五万石の城下町としかなくて、少ないと思います。昔に比べてお城の整備は進んでいると思いますが、お城の周り、例えば商店街に城下町の風情が残っているところということで思いつくところといえば、町名で残っていたりはするんでしょうが、正直ないです。失われたものは多かったです。小学校のときに走っていたチンチン電車とか今あればまたよかったなと思いますが、もうなくしてしまうと元には戻らないんです。

例えば、城下町でテーマを決めてするとなったら、多分費用がすごくかかって大変だろうと思います。ただ、テーマを決めることには大賛成なので、テーマを決めることさえここで決定すれば、名前なんかは例えば市民の皆様を選んでもらえばいいことで、ここでテーマの名前を決める必要はないと思いますが、テーマの大まかな括りは、例えば城下町とか、あるいは、まったく新しいこととかをやっても私はいいと思いますが、他のところと比べて突出したものが出来るためには、費用がかからなくてもそれだけの努力が必要になると思います。それにプラスしてAグループとして、どうしても中心市街地の商店街は市民の公共財だと、市民共有の財産だという認識を持っていただかないと駄目だということは皆で話しております、そのためにも市民の参加をもっと呼びかける必要があるだろうということです。例えば、このワークショップ提案に対して一般意見を募集しても、10通以下の話しかこないとかいう状況で、こういう会の決め事が市民に理解されているとはとても思えないです。市民の皆様の参加、自覚なしにこういう活性化はできないと思っておりますので、テーマにプラスしてそういう仕組みもあわせて考えていただけたらというのが私の願望です。

(委員長)

ありがとうございました。

今の意見、中心市街地活性化基本計画改訂版を市民に対してアピールするために、テーマの名前を一般募集するというのはいいと思いますが、この会で中心市街地活性化基本計画を作る中で、一つの方向性を決めていきたいと思います。

(委員)

先ほど委員がおっしゃったことで、ものすごく考えこんでしまいました。委員長も他から来られて和歌山市はとても魅力的なところだとおっしゃいましたが、聖地の玄関口という意識はおそらく和歌山市民にはないと思います。私自身も50年ここに住んでおりますが、そういう意識を持ったことがないです。去年は世界遺産のところに何度も行きましたし、田辺あたりの人とも話をしますが、そんな意識は地元ではないです。特に高野山なんかは典型だと思います。和歌山市は別に和歌山県でなくてもいいよというようなイメージを持っているのではないかと思います。だから、表玄関というイメージが、ひょっとしたらこういう不幸な状態にさせたのかなと思います。位置的に和歌山県の一番北にあり、和泉山脈という低い山が大阪との境にあるということで、これが非常に足を引っ張っているのではないかと思います。ですから、そこで委員や委員長がおっしゃったような魅力というのは、それはどうしたら住んでいるものが自覚していけるかなと、ちょっと悩みました。ですから、これだというキャッチフレーズがお城というものをモチーフにすると出てこないんです。

(委員)

例えば、和歌山には、和歌の浦があったり片男波があったりと、いわゆる砂洲があります。これは、景観の構造としては天橋立に匹敵するくらいの構造を持っています。昔は島があり、天満宮があり、東照宮があり、実はたくさんありまして、でも観光客から見ると少し魅力がないように見えるんです。実際に行くといいものがたくさんあるんです。しかも、中心市街地から15分ほど車で行けば、大体のところに行けてしまう。つまり、天橋立は騒がれるけど、ここはなぜ騒がれないのかなというくらいほとんど同じ景観の構造を持っているわけです。だからこそ、和歌山城というものが造られて、これだけ発展したという歴史、実績を持っているということです。そうすると、委員もおっしゃったのですが、いわゆる城下町としての構造は本当にあるわけです。それは、隠されていることは隠されているのです。物理的にはいろんなものがなくなってしまうということなので、そのなくなってしまうものを復元するのは難しいけれど、まだ残っているのはたくさんあります。観海閣から紀三井寺に向かって参詣に海を渡っていくとかいう軸線が残っていたり、まだたくさんあるんです。それを、ああそうだったんだと、住んでいる人もあまり意識化しないんです。住んでいる人があまり意識化しないというのは、実際には行かないですよ。例えば、和歌山城にはどのくらいの回数をいくだろうか、天守閣にはのぼるだろうかという、実はあまり行かなくても、心の骨格にはなっているんです、いろんなものがあるけれど。

そういう形での城下町であった歴史を背負った都市構成とか都市構造がやはりあって、その特徴を活かさない手はないだろうと思います。住民の人たちの生活とか物の感じ方とか、そういうものも実はこれらの隠された構図のベースの中にあり展開されているというものを見れば、それはとりもなおさず個性ですが、それを出すならばどうしたらいいかということです。

ではその中で先ほど委員長がおっしゃられたように、観光で売り出す、観光だけで売り出せるかという売り出せないから苦労しているわけです。産物も海のものもあるし、いろいろあるのですが、工夫すればもっとあるでしょうが、特産物だけでもいかないということです。そうすると、どうしてもキャッチフレーズとしては複合せざるを得ないと思います。これだというものを今まで市民も探してきていますけど見つからない状況なんだろうということだと思います。

その中で、皆が、若者達が興味を持つのはやはりモダンライフだと思います。つまり、モダンな現代生活を送れるかということです。歴史の深い構図を持った中で、モダンライフの生活を展開できるかということです。和歌山に来たら、モダンライフの出来る城下町であるというか、新しい城下町です。普通、城下町という古くないといけないのですが、新しい生活が出来る城下町という中で、楽しい店もたくさん出てきているわけで、そういうものを浮き立たせることが出来るようにやっていくということイメージしてやっていくというほうがいいのではないかと思います。つまり、新しさは城下町という古いものに対してうしろめたさを持つのではなくて、どんどん新しい視点が出てくるという中で、歴史のあるものの厚みが出てくるということイメージしたらいいのではないかと思います。

(委員長)

ありがとうございます。新しい生活の出来る、モダンライフというのをまず意識した上で、なんといっても歴史のある城下町ということがありますので、その二つの融合というか、そういったものを一つのキャッチフレーズというか視点にすればというご意見だったと思いますが、いかがでしょうか。

個人的には今のご意見をいただいて、なるほどと思いました。多くの中心市街地を見ていたら、先ほ

どおっしゃったように観光かそうではないという二者択一に迷っているまちがたくさんあると思います。ただ、このまちは二者択一ではなくて、これは新しい視点だとは思いますが、モダンライフとお城の伝統というかそういったものを味わえるという視点でみていくということです。そういったものを持ったまちです。

(委員)

ただ、和歌山というのはポッチポッチなまちなんです。ポッチポッチというのは、アメリカでゴット煮という意味なんです。基本的にはいろんなものを味わって、その一つ一つの味を感じられるような、煮込みうどんみたいな感じです。

それが、今、委員がおっしゃったように、どうしても頭の中に古いものは古い、新しいものは新しいと二分割されているんです、和歌山の人の頭の中は。どうしても受け入れられないんです。

(委員長)

いかがでしょうか。

(委員)

テーマのことについて「つれもてやろら」とか先ほどありました。これは私の意見なんですけど、和歌山弁で「つれもていこら」というのがよく言われます。これはNHKのおーい日本和歌山県の中でもキャッチフレーズとして使われていました。「つれもていこら、ぶらくり丁」、ぶらくり丁という名前だけでいかは分かりませんが、要するにぶらくり丁周辺に人を集めることが目的だと思うんです。

今、70才以上の高齢者に対して、「元気<sup>ナナマル</sup>70パス事業」というのをやっております、これはどこからバスに乗っても100円で目的地まで行けるという施策です。これは、和歌山バスと提携して年間6千万円の補助を和歌山市がしております。この施策の対象年齢は70才以上ですが、その他にも70才以下の人をいかにぶらくり丁へ集めるかということです。

私個人のアイデアですが、これは先ほどのもっと具体的な案のところでは言うべきかもしれませんが、例えば、加太とか山東とか安原とか遠くから中心市街地へバスで来ると1000円を超したりしてかなり高いので、ぶらくり丁へ少しでも多くの人に来ってもらうためには、ぶらくり丁の本町2丁目や3丁目以降りれば、どこから乗っていても100円とするんです。例えば、老人の行き先というのは病院とかが多いですが、データにも表れておまして、日赤や医大とかの方向へ行く老人の方が多いです。そうすると、例えばぶらくり丁で降りて病院へ行くとなれば、近くには済生会病院があります。これがもし山東や加太から高い交通運賃を払って日赤や医大へ行くのなら、ぶらくり丁まで来て近い済生会に行こうということも考えられます。それから若い人になれば、新内へ行こうかというときに、新内にもバス停はありますが、向こうで降りるとかなり高い運賃になりますが、本町2丁目以降りて歩いていたら100円で済むと。そういうことで、とにかく目的地まで行くためには、まず本町のぶらくり丁の中心から出て行くということです。そのために今のバス停の場所が悪いというならばぶらくり丁の中心部にバス停を置けばいいということです。そしてこれは、ぶらくり丁の商業者とかTMOとかが和歌山バスと交渉すればいいのです。

私はいつも遠くから中心部へ来るバスの中を覗いているのですが、そうすると一人とか二人とかしか乗ってなくてこれではいけないということでして、一人で走るのもいっぱい走るのも、人件費やガ

ソリン代は変わらないので、和歌山バスと交渉すればいいと思います。ぶらくり丁が、例えば和歌山バスと1億円で提携して、ぶらくり丁で降りたら100円にしてくださいよと、そのようなことでいけば、ぶらくり丁に人が出て行く。そのついでに買い物をしていくという気がするのです。私はとにかく人を集めるということが先決だと思います。

(委員長)

ありがとうございます。「つれもていこら」ということから、人を集めるというところまでご意見をいただきました。

時間の関係上、この会は今回と次回としかありません。ぜひ今回である程度のテーマを決めて、細かいネーミング等についてはまたということなのですが、いかがでしょうか。今いくつか出ている中で、おそらく歴史という言葉についての認識はある程度あるかと思います。私は外から来たというのがあるかもしれませんが。また聖地の玄関口という、ぐっとくるものもいただきました。また、背負って立つものがあるまちというご意見もいただいたと思います。そして、モダンライフ、新しい生活の出来る城下町といった言葉もいただけたかと思います。

ぜひ、これは方向性ということなので、いくつかの複合的なことだとは思いますが、ある程度の方角性として一つにもし決めるとしたらいかがでしょうか。個人的には、今いくつか出た中で、新しい生活の出来る城下町、これに聖地の玄関口的な位置付けがあればいいのかなとはちょっと思っているのですが。

(委員)

今、委員がおっしゃったように、ぶらくり丁を経由すればどこにでもいける、「ぶらくり丁にいこら」というのはとてもいいと思います。それが本当のぶらくり丁の姿ではないのかなと思います。

(委員長)

どこにでもいけるということですね。

(委員)

昔からぶらくり丁を起点としていろんなところへ行ったのではないのでしょうか。だから、ぶらくり丁は栄えていたのではないのでしょうか。

(委員長)

先ほど委員がおっしゃいましたが、要するに移動するときいろんなところへ行ける中心地であるということです。

そうすると、キーワードやテーマとしては、どこかへ行こうよとか、このまちを通っていこうよとか、集まろうよとか、そういったことになるのでしょうか。

それでは、ここでは一応方向性ということで、時間の制約もありますので細かいネーミングというのはなかなか見つからないと思いますが。それで、いくつか出た言葉を集約しますと、例えば移動性のある中心地というか、ちなみにヨーロッパのまちでよく使われるまちのキャッチフレーズに「環境都市」とか「持続可能な」とか、そういった言葉を使うまちが多いです。エコや環境を考えたまちです。あと、



国内に目を移しますと、例えば大分県の湯布院町では「健康のまち」とかそういったキャッチフレーズの中でまちをアピールされています。例えば、温泉に来られるのも健康、また、まちのなかを歩いたり、散策したりするのも健康ということで、健康というのを一つのキーワードにして括って、その中でいろんな関連性を持たせたまちです。そういった視点として、湯布院町のような例が一つあります。

和歌山市のまちの中を考えるのに、お城、古いまち、また聖地の玄関口、そしていろんなところへ行ける地域、それぞれの特徴があるのですが、やはり私としては一つに絞って、キャッチフレーズですからその中で関連性を持たせればいいと思いますので、一つの方がいいかとは思いますがいかがでしょうか。何か、私はこれが一つだと思うところがありましたらと思います。

(委員)

聖地の玄関口というのに引っかかります。和歌山市は玄関口だったがゆえに、発展しなかったということがあると思うんです。通り道です。和歌山といえば関西では皆さん白浜は知っていました。今は東京からすぐ飛行機で行けますから、皆さん和歌山市は通りません。そういう悲哀の和歌山市だったと思うのですが、今、新宮市でちょうど「お燈まつり」がもうじきあります。「お燈まつり」はまちをあげてやります。全国からくる観光客に対して、まちなかで全部の装束をしつらえるんです。それが産業になっているんです。玄関口というなら、例えば高野山へのぼるための何か道具がいるのならば、「和歌山市のぶらくり丁に来れば全部揃いますよ」とかが必要かと思います。例えば熊野古道がせっかく世界遺産になりましたが、和歌山市がこれだけよそに置かれているというのは、熊野古道を歩くための道具が和歌山市のぶらくり丁に行けば全部揃うんだという視点がまったくなくなかったところに原因があるのではないかと思います。だから、玄関口というからにはそこまで機能を持たせないと、外に向かってえらそうにいけないと思います。ですから、先ほど私は玄関口という言葉マイナスのことで使ったんですが、プラスに変えればもちろんいいわけで、そのためにはやはり実体をともなったものにしていかないといけないと思います。和歌山市は世界遺産をまったく取り込めていなかった気がするんです。紀伊半島から一番取り残されているのが、もしかしたら和歌山市かもしれないというようなイメージがあるんです。

(委員長)

これは和歌山市がですか、ぶらくり丁というか中心市街地がですか。

(委員)

どちらでもいいです。

(委員長)

今の意見に関連してでも構わないのですが、いかがでしょうか。

前回 12 月にいただいたご意見をそのまま使って議論させていただいているのですが、とりあえずキャッチフレーズを決めていかないといけないです。委員もおっしゃっていましたが、この問題をクリアすることによって、この会の一つの特徴というか、そういうものを出していきたいと思います。

(委員)

基本的に、「ぶらくり」というのは、どういう意味ですか。

(委員長)

物をぶらくるです。物をつるすということです。

(委員)

どうしてそういう名前がついたのでしょうか。

(委員長)

昔は店頭に物をぶらくって売ったんです。

(委員)

もう一回、ぶらくって売らないといけないのかな。

(委員)

「ぶらくり」という名前の起源はよく聞かれるのですが、ぶらくり丁というのは、今の本ぶらくり丁だけの特徴なんです。それは物をぶらくるから、そういう店が集まっていたからぶらくり丁だという意見が強いんですが、ぶらりぶらりと散策するという発想の方もいらっしゃいます。そのところは、はっきりしません。ただ、ぶらくり丁という名前は一度聞いたら忘れられないです。全国に行って、ぶらくり丁という名前を言いますと、もう絶対忘れないという、そういう非常にユニークな名称を持ったまちだけに、消えていくというのは非常に惜しいなと思いますので、もっと活性化したいという気がしています。

それから、ぶらくり丁大通りなんかも、全部ぶらくり丁の名前を使っていますが、本来はあそこは築地と言われていたんです。もともと本来、元寺町というのが正式な町名ですが、あそこはもともとお寺のまちだったんです。その寺が、今は寺町の方に移動しまして、元寺町という町名になっております。昔の町名がところどころに残っておりますが、その町名をたどっていきますと、あのまちの周辺のもともとの形態というものがあ程度ぼんやりとながら分かってきます。

私は戦前の姿も知っておりますが、今現在あそこに在住されて商売されている方で戦前から商売されている方はほんの一握りしかいません。ほとんど戦後にあその場所へ出てこられた方です。この間から、ひょんとそういうことを考えているのですが、戦前のまちなみやそこにどんな店があったのか、どんな商いをされていたのかということ、一度自分の記憶の中でたどりながら再現してみたいと思っています。今のうちにそれをやっておかなければ、全然分からなくなってしまうのではないかと思います。今でしたらまだ記憶を持っていますので、そういう仕事もして後世に残しておきたいと思っております。

(委員)

行き詰まったときは、上位計画を見るというのが私の手法でして、和歌山市長期総合計画の中に、「継承と創造」という言葉があります。何々を形成し、再生・活性化することという文言が使われているこ

とから考えると、先ほどのお話でモダンライフとか、安全、安心とかありましたが、私は和歌山が見失っているものは独自性で、よそにないもの、ここにしかないものだと思います。ここは、いろんな歴史、文化、さらに新しい発想の元に風土を考えていくという意味で、「継承」とか「創造」という言葉が出てくるのではないかと思います。「創造」というのは、今、創造都市論というような理論もまちづくりの経済手法の中で出てきております。

(委員長)

「創造」というまち。今までのものを踏まえた上で、新しいもの、オリジナル性、他のまちにはない、まったくの独自性を探すという意味で、「継承と創造」というのを一つの手がかりにしながらオリジナルなまちを造っていく。今、委員がおっしゃっていた新しいまち、独自性のあるまちというのは、ある意味ですべてを網羅したものかなと思います。例えば、先ほど委員がおっしゃったようなモダンな城下町、これは新しい視点です。城下町を売るというのは、普通です。例えば、モダンライフを味わえる城下町とか、聖地の入り口とかも新しい視点かと思えます。ですから、オリジナル性というか、独自性というものを一つのキーワードにして全体を見ていく。その中にいろんな歴史ですとか文化ですとか、継承された文化とかを入れていく。

大体のところの皆さんの意見は出つくしたかと思えます。何かありますでしょうか。

とりあえず、今の委員のアイデアの中に出てきた、「創造と継承」は上位計画の中にもあるようですが、その中で独自のまちの視点、新しいオリジナルな自分たちのまちだということ、そこを一つテーマにして、ネーミングはいろいろあるかと思えますが、その中に先ほど言った、聖地の玄関口であるとか、モダンライフとか、城下町とか、例えば温故知新という言葉は私は好きなんですけど、全体的な視点の中でとにかく新しい視点の中でやるんだと、こういった視点で歴史を見たりとかするということだと思いますが、どうでしょうか。

よろしいですか。それでは、最後に委員の方から出た、「継承と創造」、そして、「独自性」、「新しいオリジナルなまち」ということで、その中には他の委員さんがおっしゃったことが全部、入っているのですが、内容とか精神、新しいオリジナルなまちを造っていくということです。「継承と創造」という文言の視点から全体を見ていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(全委員)

異議なし

(委員長)

これは長い時間をかけたということである意味画期的だと思います。委員会でそういった性質をまとめて、テーマを議論するというのはとてもユニークだと思います。

それでは、すでにすべての検討は終了して、素案は出来上がっていますので、今、委員の方からいただいたそういった視点、見方というものを踏まえて素案を見ながら、実現の可能性というのについて考えてみたいのですが、今回と次回という制約の中で、この会議の中では何が出来るかということです。

これは私からの提案なんですけど、次回の会議までに、素案を今おっしゃったようなオリジナル性とかモダンな城下町とかいった意味を含んだオリジナルなまちで再度、全部の位置付けを見たいと思います。そしてそれを今度はそれが実現可能かどうか、TMO にすべてまかせるのではなく、実際はどこがやる

のかとかいったような視点を含めながら、再度最終的な案を作っていきます。ただし時間の関係上、これは私と事務局の方でもう一回見直して、作ってみて、次回の会議までに委員の皆様へ送ります。そして、実現の可能性とかも含めて再度見ていただいて、それをフィードバックしていただいたものを最後の会議にかけてみて、最終的な策定委員会の案で出したいと思うのですが、いかがでしょうか。

よろしいですか。それでは、大体お話する内容についてはすべて終わったと思います。もう一度確認ですが、今、テーマがある程度決まりました。素案の検討はすべて終わりましたので、そのテーマに沿った形で私と事務局のほうでいろいろな視点から作り上げた最終的なまとめを、委員の皆様へ次回の会議までに送らせていただいて、それを次回検討していただいて最終案にするということです。最終的には実現の主体はどこになるかということですが、この策定委員会の終了後に、市民メンバーの何人かからやってみたいという声がかかっておりまして、その方々もおそらく参加したいと思いますので、別途2月か3月に私的な形で立ち上げて、そこでもって出来上がった計画についてこうやろう、ああやろうとか実行について話し合っ、別途募集したりとか、名前はまだミニTMOになるかどうかは分かりませんが、そういう実行組織みたいなものも別途、市民版で立ち上げるということも可能かと思いますが、よろしいでしょうか。

(全委員)

異議なし

(委員長)

では、ご了承いただいたということで素案についての議論はこれで終わらせていただきまして、事務局から何か連絡事項等ありませんでしょうか。

(事務局)

本日の、委員会の内容につきましては、事務局で議事録案を作成し、出来次第、委員の皆様へお送りいたします。お送りした内容を、各委員さんに確認いただきました後、修正箇所があれば修正して、議事録としたいと思います。

それと同時に、委員長の方からから申し上げましたが、素案を今回の検討結果を踏まえてつくりなおしたものにしましては、次回の策定委員会までにできるだけ早く出来次第お送りします。

お送りした素案はご覧になった後、次回の策定委員会にお持ちくださいますようお願いいたします。

次回、第5回策定委員会は2月21日、月曜日、午後6時30分から、場所は同じくこの会議室で開催させていただきます。開催通知は、後日送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。

なお、次回開催までの間、質問等がございましたら、まちおこし推進課までお問合せください。

事務局からは以上でございます。

(委員長)

それでは、これで第4回和歌山市中心市街地活性化基本計画(改訂版)策定委員会を終了いたします。

委員の皆さん、長時間ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。